

みんなの家

住宅地の中にある廃屋を建て替え、宿泊所とする。お風呂という行為を道を挟んだ南側に持つ。いき、家という内にこもりやすい空間で、外との交流を促す。裸の付き合いという言葉があるように、集団の中でいることで本音で話し、色々な人を頼ることを学ぶ。

海の食堂

男木漁港のすぐ近くに、食を学ぶ食堂をつくる。ご飯は食べるだけでなく、そこに至るまでたくさんの人の手や手間が携わっている。収穫から選別、加工、販売までを見える化するとともに、子どもたち自身が島の大人に教えてもらいながら農業を経験する。自分が生きることに対して、沢山の人が関わり、より感謝することを知る。

島の芸術所

男木港まで一直線に見渡せる眺めのいいエリアで、芸術を通じた交流所をつくる。芸術は、今ある生活をより豊かにするためにある。島外から来た芸術家や島民、子どもたちそれぞれの感性で創るものは、互いに影響を及ぼし、新しい価値観を学ぶことができる。

島の集積所

集落の外れにある廃屋を建て替え、子どもたちや島民、島外からの人の感性が集まる広場を計画する。当たり前になりつつある景色も、違う人のフィルターから見ると鮮やかに見える。そうした、自分だけの宝物を持ち寄り、新しい形に再利用することで、愛着が湧く。

海の郵便局

今ある簡易郵便局を建て替え、手紙や荷物を通じた人々の交流所とする。郵便の流れや、紙のでき方などを見える化するとともに、送る相手を想像しながらデザインを作り、楽しみにする。昔からあった、人を思いやる気持ちを学ぶ。

山を架け、路を編む

- 男木の方と子供の力の再編集 -

島内案内図 1/500

01 はじめに

□01-1 村から家に

「一人の子供を育てるには村が一つ必要」というアフリカのことわざが示すように、子育て、子どもの成長にはたくさんの方が関わらなければいけない。しかし近年のデジタル化における非対面のコミュニケーション技術は対人関係の希薄や核家族化を促し、生活の範囲を村から家に変えてしまっている。生活の範囲が村から家に変わることで「地域コミュニティの減少」、「孤育て」「孤育ち」、「生活の室内化」など子どもが成長するうえで関わる人の数が少なくなるという問題が挙げられる。

地域コミュニティの遮断等における孤立化



□01-2 空間の隔離

対人関係の希薄や家庭内部に向く意識は建築にも現れる。これまで建物の境界を越え、生活の活動範囲だった道は、ただ移動する場所という認識だ。人の活動が見えにくいことは互いに交わる意思さえ感じない。これまでの、村が一つの大きな家という意識は、多様な養育、教育の機会を提供していた。生活範囲が家になることで養育、教育機会は一律で、机上で文字を追いかけることしかできない。もう一度、生活や教育、養育範囲を家から村に戻すために公私の境を曖昧にさせ、人の活動を見えやすくすることが大切だと考えた。

- 知られたくないという意識の変化は
- ・ ナナメの繋がり
- ・ 代替養育環境
- ・ 生きた学び

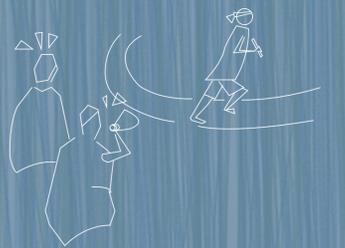
の減少を招く



□01-3 近所の減少と一筋の光

「近所がなあ、おのなつたわ（無くなった）」瀬戸内国際芸術祭の成功や移住者の増加などで脚光を浴びる男木島だが、今でも漁村集落として相互扶助の文化を持ち、当たり前前に生活している人がいる。人口減少や移住者へのネガティブな感情がある中、ヒアリング調査を続けると子どもが生きる力になっている声によく出会った。島民の中には集落全体が大きな家族のような共同体意識が残り、子供たちは一筋の希望になり、皆で見守り育てている。

みんなで見守り育てる



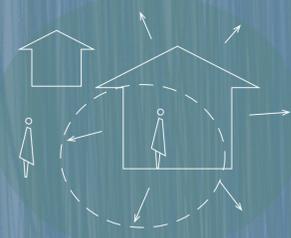
02 提案

□02-1 家から集落に

今の男木島において、生活の範囲は村であるが、限られた人のコミュニティになっており、一歩踏み込まないと生活の営みを垣間見る事ができない。島外から来た子供と島民が自然と交わる計画を進め、その計画が長期的にお互いにとっていい影響を与えなければいけない。子どもにとっては、能力が発揮できるように成長を支える、環境を整える空間が必要である。また、地域社会においては、子どもと共に持続可能な町づくりを推進する。1 からコミュニティを作っていくのではなく、今ある良き文化を次の世代につなげていくフリースクール計画を行う。

生活行為の充填
文化の継承や島の存続
子どもの活動による活性化

を軸に展開



□02-2 空間の共有

計画エリアは空き地や廃屋を対象とし、集落内部にまんべんなく行き渡るように選んだ。5つのエリアを拠点とし、集落内部の道で繋ぐことで計画敷地から集落全体に影響を及ぼしていく。集落の今ある道を引き込み、そのエリアごとに合う道に再構成し、生活を巻き込んでいく。道は生活の一部となり、道に対して生活や空間は優しく開いていく。子どもは生活の営みに触れながら主体的に反応を繰り返し、成長していく。また、大人は生活を営みながら子どもの活動を見守り、刺激を受け、島全体が活性化していく。

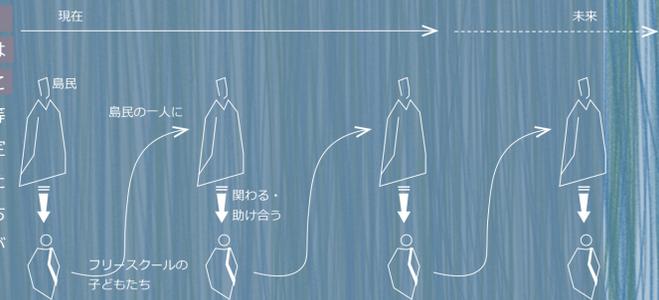
道を引き込み活動を露出させていく



□02-3 光の拡大と島の未来

成長速度の著しい、子どもをターゲットにすることで、一時的にはなく、長期的に関係人口を増やすことができる。島での思い出や学び等の良さが伝わることで、将来的に定住したり、関わるかつての子どもたちが現れてくる。島民が子どもたちに関わり、助け合う様子は引き継がれ、相互扶助の文化は残っていく。

長期的に持続するサイクルを作る



03 対象敷地

□03-1 うろこの集落の間を縫う道

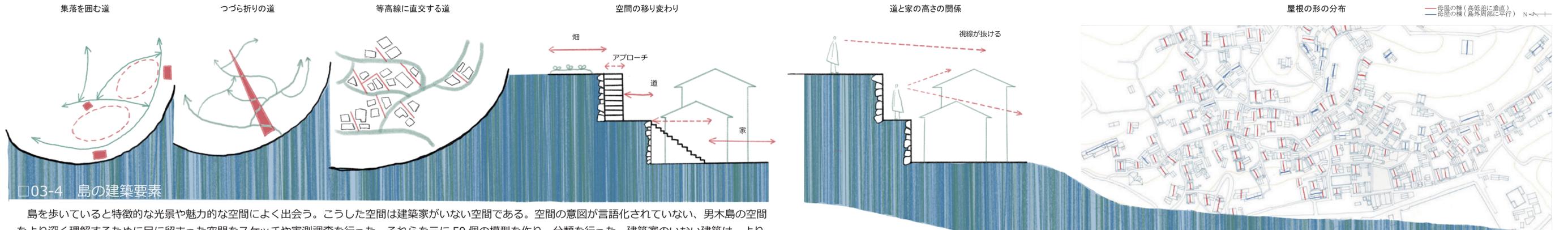
集落内部の道に焦点を絞る。島内の道は広くても車一台程の幅員しかない。集落を囲うようにある幅員の広い道は、島の重要な拠点を結び、災害時の避難等にも役立つ集落を守る道になる。集落内部に入り込む迷路のような道は、坂道を最短距離で結び、住民の裏動線になる。幅員、段差等により、生活場面を変え、道にも役割を持たせていることが分かる。

□03-2 断面的な環境の厳しさ

斜面地に焦点を絞る。道と家との間には高低差がある。道に付属する家は海に向かい低く、屋根を見下ろすほど低い家もある。低い屋根は視線を奥に誘導し、海などの向こう側の環境と立っている道との距離を埋める。家へのアプローチには高低差を埋める役割を求められるため、長くなる。私空間が密集しやすい空間において、斜面は公と私の空間の距離を作る役割を持つ。

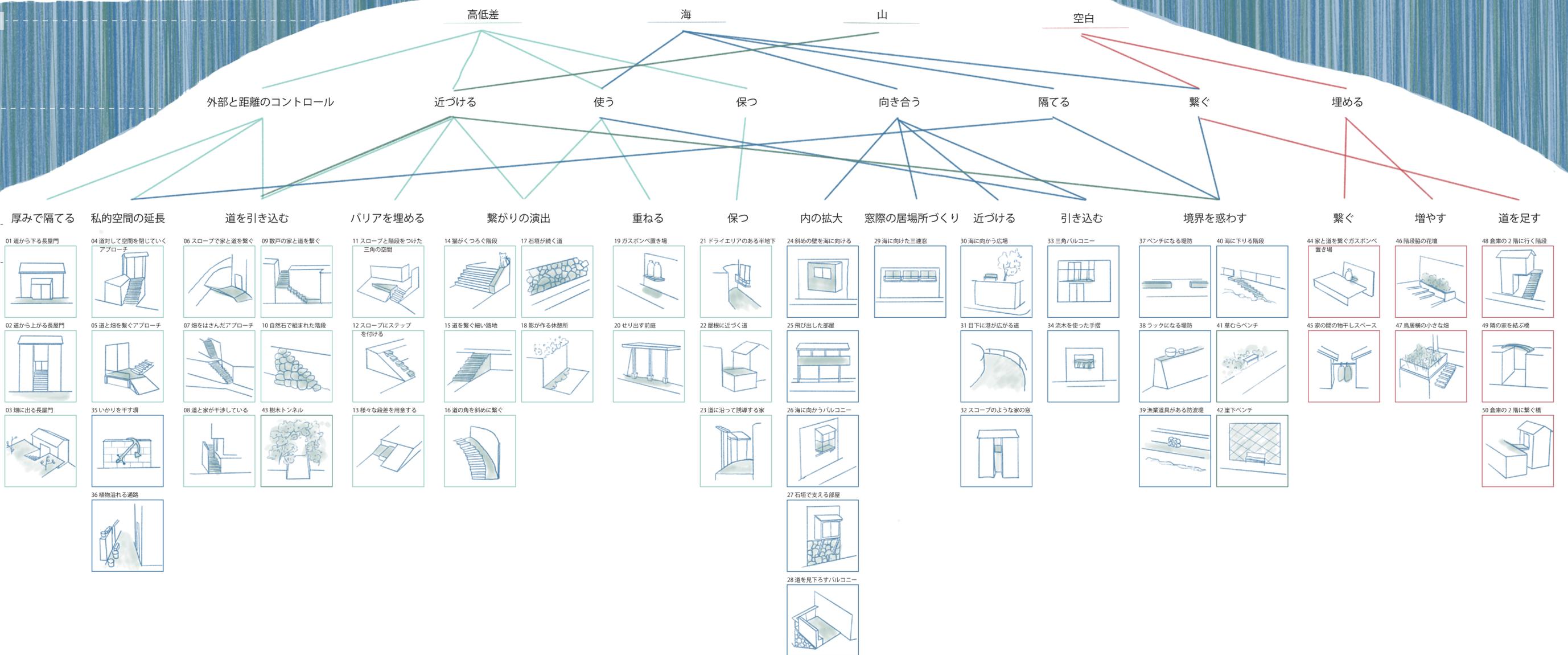
□03-3 集落の景観の軸

屋根に焦点を絞る。鱗のような集落は、母屋の入母屋屋根に中庭を囲うように切妻屋根が周ることによってできている。もとある敷地を埋めるように家の角度を振り、最大限、敷地を生活空間として使う。日本の伝統的な入母屋屋根の耐久性、通風性の高さで母屋を丈夫に作り、その他の付属家屋はシンプルに作ることで男木港周辺で昔から行われてきた。



□03-4 島の建築要素

島を歩いていると特徴的な光景や魅力的な空間によく出会う。こうした空間は建築家がいらない空間である。空間の意図が言語化されていない、男木島の空間をより深く理解するために目に留まった空間をスケッチや実測調査を行った。それらを元に50個の模型を作り、分類を行った。建築家のいない建築は、より周囲の環境や人の思考に忠実な方法で解決されていると模型を作りながら感じていた。分類の方法として 元の環境→思考→方法→できた要素(結果) の順で空間の真意や成り立ちを読み解く。



04 設計

□04-1 設計プロセスとしての再構築

男木集落から取り出した 50 個の建築要素と男木島の集落構成を再構築し、男木集落に馴染みつつも新しい形として意図して計画することはできないだろうか。5つのエリアに共通する 13 個のルールを作りこれらをもとに計画していく。

<p>・海に向かう方法</p> <p>01 棟の向きルール 周辺の母屋の棟の向きに平行になるように屋根をかける</p>	<p>02 山を張る高さルール 周囲に合わせた棟の建物は他の建物より高くする</p>	<p>03 連なる屋根のルール 付属建物と馴染むように小さな切妻屋根をかける</p>	<p>・道を引き込む方法</p> <p>04 動線の交差ルール 上下で違う活動の交錯を狙うために道を重ねる</p>	<p>05 1/8 勾配のルール 狭い集落内を少ない障害で通るために 1/8 勾配にする</p>	<p>06 2m以下の幅員ルール 道を 2m以下の幅員にし、譲り合うことも交流の一つ</p>	<p>・空間を繋ぐ方法</p> <p>07 中庭を作るルール 道の先や隣に中庭を作り、通行の役割と団楽を兼ねる</p>
<p>08 海に視線を向けるルール 海に対して視界が広がるように空間を延長する</p>	<p>・集落が一つの家になる方法</p> <p>09 空間を重ねるルール 重ねた空間の下は、限られた中で新しい使われ方をする</p>	<p>10 空間の曖昧さルール 内と外との間に軒下空間を作る</p>	<p>11 島民が次の島民のためにルール 活動を見える化する</p>	<p>・未来を創る方法</p> <p>12 学びを重ねるルール 互いに影響を及ぼす 3つの要素を 1つのエリアに入れる</p>	<p>13 環境を守るルール 段々畑や傾斜はそのまま空間として組み立てる</p>	<p>13のルール × その土地の特色 = 新しくもどこか既視感のある建築群</p>

□04-2 子どもの道はいつもの道に

男木集落の景観の軸である入母屋屋根と平行に、学び、活動を促す子どもの道を引き込む。島の外周部から集落内部に入るにつれてエリアごとに関わりの距離を設定し、それぞれにとって心地よい場所を目指す。ここではエリアの軸となる対人・心理距離を埋める / 離す操作を示す。

<p>site/ ← 敷地の軸</p> <p>海の郵便局 ① 始まりの場 レベル差で居場所を上下に線引き</p>	<p>site/ ← 敷地の軸</p> <p>海の食堂 ② 知見の場 レベル差で居場所を分けつつ、交差</p>	<p>site/ ← 敷地の軸</p> <p>島の芸術所 ③ 展開の場 同じ道を共有し、レベル差で分ける</p>	<p>site/ ← 敷地の軸</p> <p>みんなの家 ④ 解れる場 道を平行に沿わせ、生活の共有</p>	<p>site/ ← 敷地の軸</p> <p>島の集積場 ⑤ 織り交ぜる場 道を一本化し、機能と共に共有</p>
<p>公共性高い ←</p>			<p>→ 内心をさらけ出せる</p>	

<p>□バリアを埋める</p> <p>生活の営みを知るには動線を長くする。スロープを用いて、生活に必要な機能、より追求したい機能を結ぶ。大人たちの生活の上で、子どもは自分たちの生活の営みを作り上げる。</p>	<p>□道を足す</p> <p>生きるために必要な食の文化を学ぶために階層を分ける。子供が上階で学ぶとき、大人は下階で活動し、大人が上階で一息つくとき、子供は畑で目を輝かせて土をいじる。</p>	<p>□近づける</p> <p>生活をより豊かにするために芸術はある。日々新しい発見ができる感性を育むために、少しずつ高さが変わっていくスロープを用いる。道が部屋になり、部屋が道になる。大人と子どもが入り交じり、豊かな営みに繋がる。</p>	<p>□境界を感わす</p> <p>生活には公と私の切り替えが大切だ。ただ、内の生活が見えてこない集落はさみしくなる。そのため、境界をいくつも重ね、生活のグラデーションをつくる。公と私の間には生活の彩りが表れ、集落を賑わせる。</p>	<p>□厚みで隔てる</p> <p>豊かな島の自然が当たり前にならないように、感性の集積をし、宝物を見つける。いつもと変わらない単調な一本道を繋げたからこそ、少しの変化が現れやすい。また、自然がつくる時候が私の居場所をつくる。</p>
--	---	--	---	---

海の郵便局
 用途：郵便局、印刷所等
 形式：木造
 敷地面積：1164.52 m²
 建築面積：353.72 m²
 延床面積：425.54 m²

1階平面図兼配置図 1/100



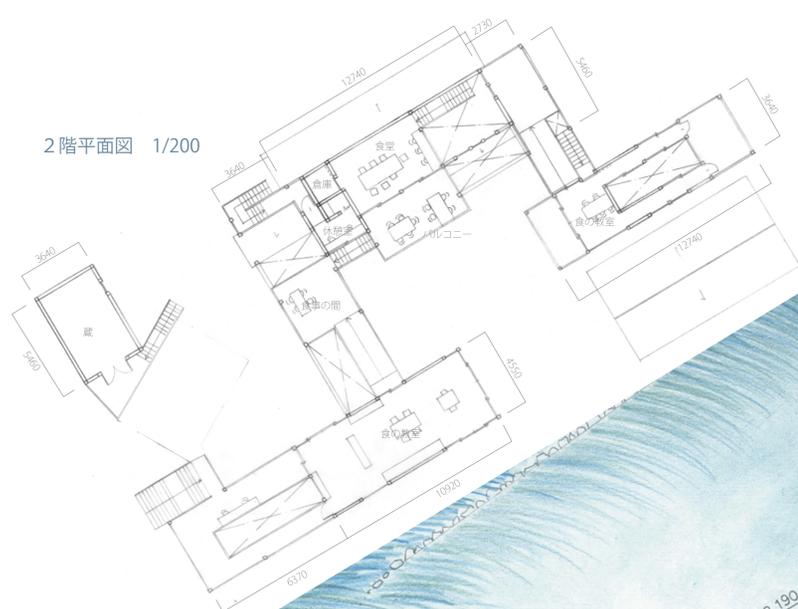
□04-3- エリア1：海の郵便局

□営み
 距離をコントロールしつつ、繋がりを持たず要素を重点的に活用した。対話等のコミュニケーションが無くとも、人の息遣いが感じられ、自然と島の営みに馴染んでいく。



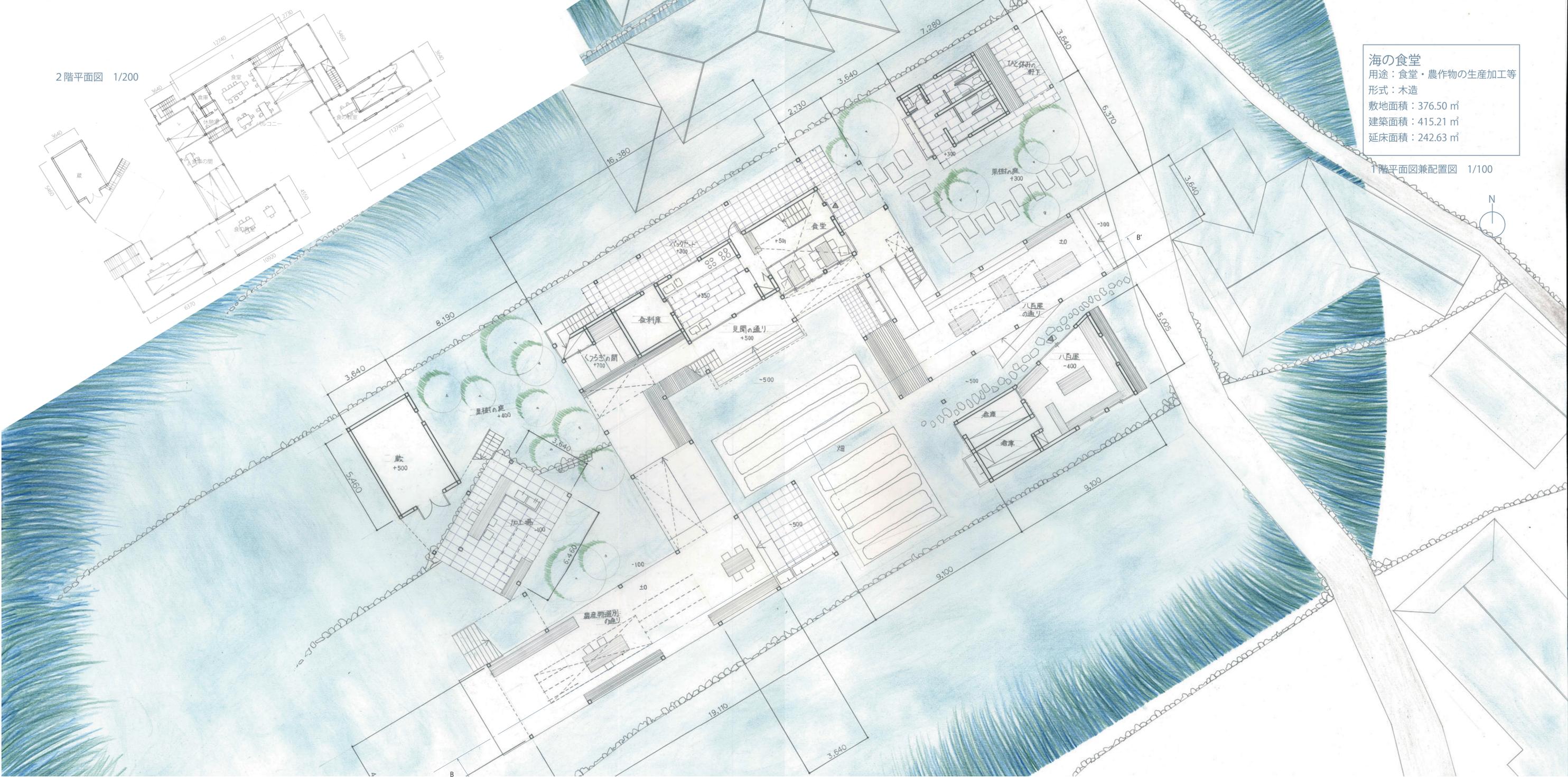
<p>02 道から上がる長屋門 (高低差・外部と距離のコントロール・厚みで隔てる)</p>	<p>厚みで隔てた空間は子供だけの基地になる</p>	<p>子ども基地に籠るための階段</p>	<p>07 畑を挟んだアプローチ (高低差・近づける・道を引き込む)</p>	<p>景色を挟んだアプローチ</p>
<p>19 ガスボンベ置き場 (高低差・使う・重ねる)</p>	<p>異なる用途を理ねることで使えらる場が増える</p>	<p>三重の置き場</p>	<p>21 ドライエリアのある半地下 (高低差・保つ・保つ)</p>	<p>高窓が繋ぐ半地下</p>
<p>50 倉庫の二階に繋ぐ橋 (空白・埋める・道を足す)</p>	<p>少しの間隔は道を足し、動線を多様化させる</p>	<p>段々畑と子どもの道を繋ぐ隠れ橋</p>		

2階平面図 1/200

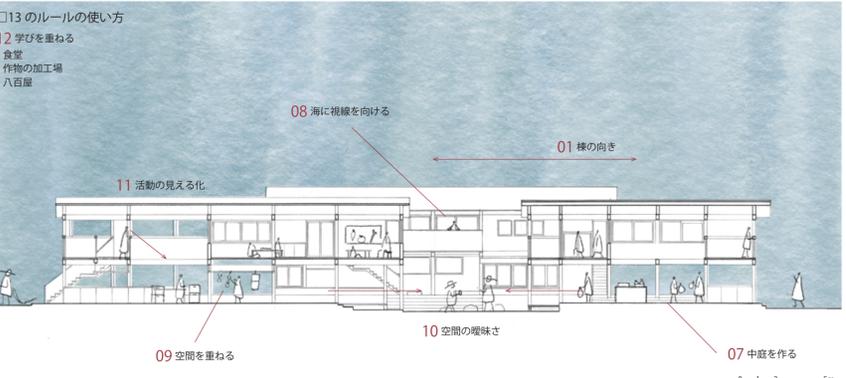


海の食堂
 用途：食堂・農作物の生産加工等
 形式：木造
 敷地面積：376.50 m²
 建築面積：415.21 m²
 延床面積：242.63 m²

1階平面図兼配置図 1/100



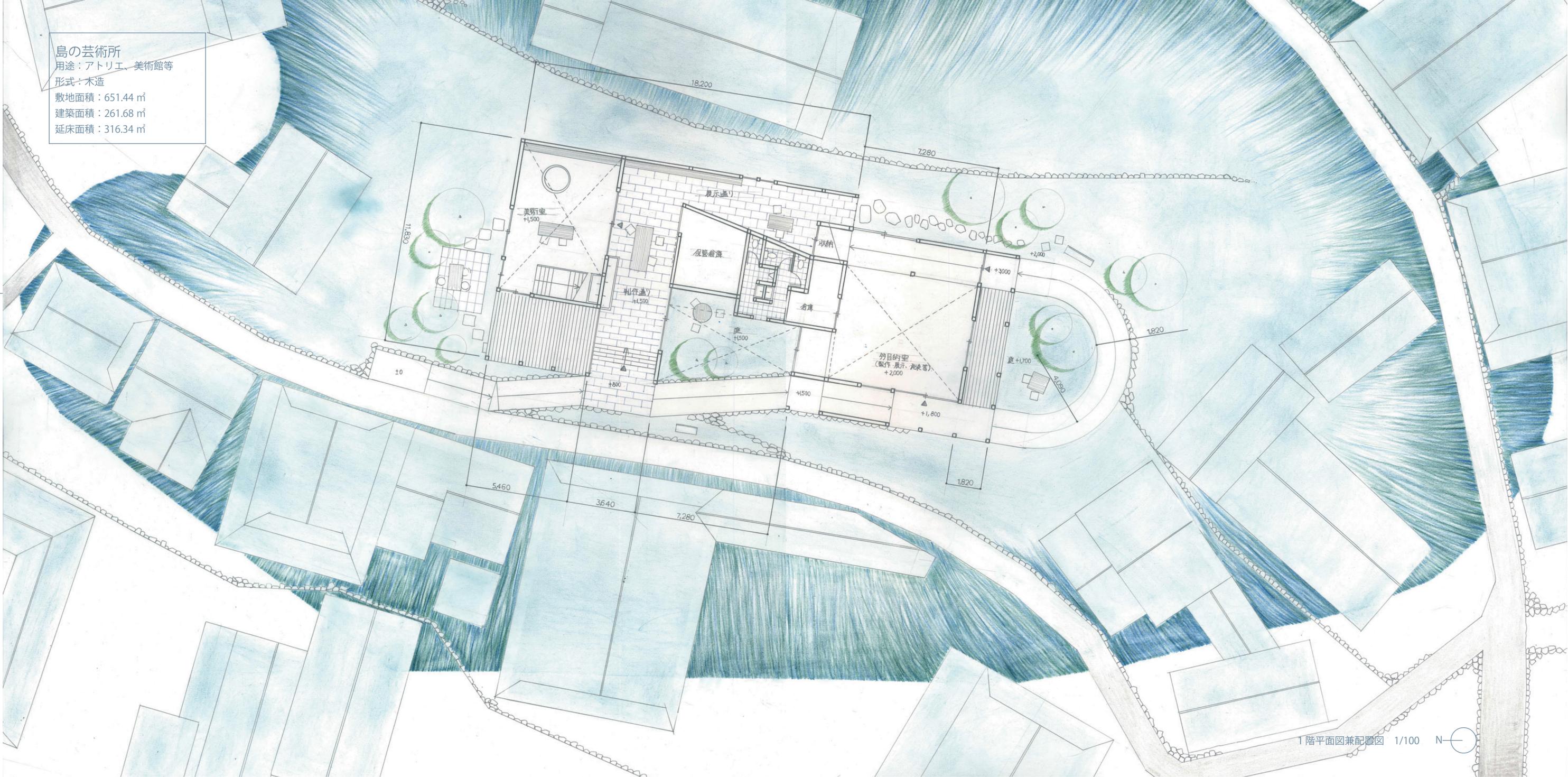
□04-3- エリア 2：海の食堂
 □生産
 2つ以上のものがお互いに干渉しあって作られる要素を重点的に活用した。道を通る際には何かの現場に出会うなど、いつもの役割に一つずつことで自然と交わる。島民と同じ目線に下りる場面が増え、対面でのコミュニケーションが生まれていく。



<p>08 家と道が干渉している (高低差・近づける・道を引き込む)</p>	<p>生活と移動を近づけるために道を引き込む</p>	<p>農業と生活の干渉道</p>	<p>20 せり出す前庭 (高低差・使う・重ねる)</p>	<p>海に向かうバルコニーを重ねた下の低い空間は部屋のように落ち着く</p>	<p>せり出すバルコニー</p>
<p>33 三角バルコニー (海・向き合う・引き込む)</p>	<p>奥に向かって広がる道は人を引き込み、空間を変化させる</p>	<p>三角の広がる道</p>	<p>43 樹木トンネル (山・近づける・道を引き込む)</p>	<p>人と乗車を近づけるように道を引き込み空間を変化させる</p>	<p>果実トンネル</p>
<p>47 鳥居橋の小さな畑 (空白・埋める・増やす)</p>	<p>中庭をただ渡る道ではなく、特定の活動の場とする</p>	<p>食堂横の小さな畑</p>			

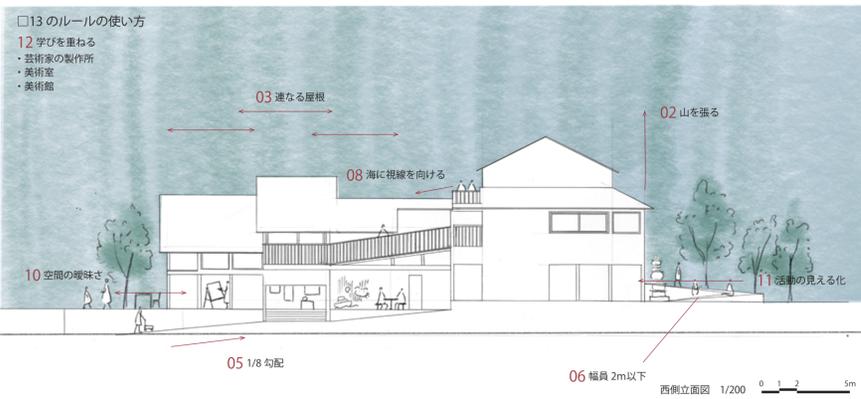
B-b 断面図 1/200 0 1 2 5m

島の芸術所
 用途：アトリエ、美術館等
 形式：木造
 敷地面積：651.44 m²
 建築面積：261.68 m²
 延床面積：316.34 m²

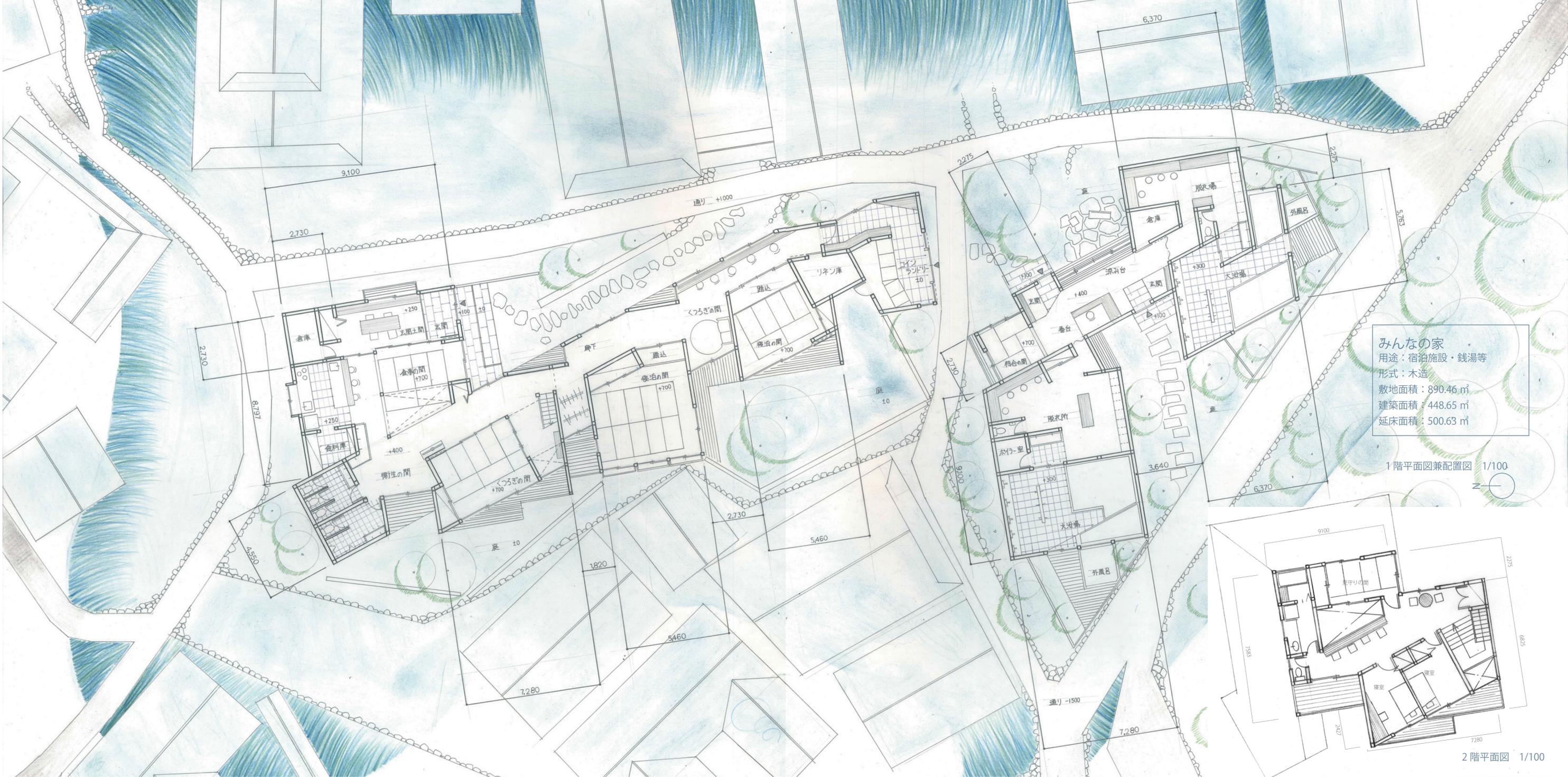


1階平面図兼配置図 1/100 N

□04-3- エリア 3：島の芸術所
 □追及
 境界の曖昧性や視覚的な延長性をもつ要素を重点的に活用した。同じ空間の中に複数の活動が垣間見え、空間を区切っていく。壁や建具で境界を決めない分、人に干渉しやすくなり、島民と子供の交流が加速する。



<p>17 石垣が続く道 (高低差・近づける・繋がりへの演出)</p>	<p>高低差が生む視線の掛けは人を繋げる役割をする</p>	<p>芸術が続く道</p>	<p>29 海に向けた三連窓 (海・向き合う・窓際の居場所づくり)</p>	<p>活動に向けた三間の吹抜け</p>
<p>36 植物溢れる路地 (海・開てる・私的空間の延長)</p>	<p>道に対してそれぞれの空間を延長していく</p>	<p>活動溢れる路地</p>	<p>42 崖下ベンチ (山・開てる・境界を感ずる)</p>	<p>バルコニーは表現の場となり、新しい空間を形成する</p>
<p>44 道と家を繋ぐガスボンベ置き場 (空襲・埋める・繋ぐ)</p>	<p>空間同士を繋げ、人の動線を単純化する</p>	<p>展示と政策を繋ぐ展望デッキ</p>		

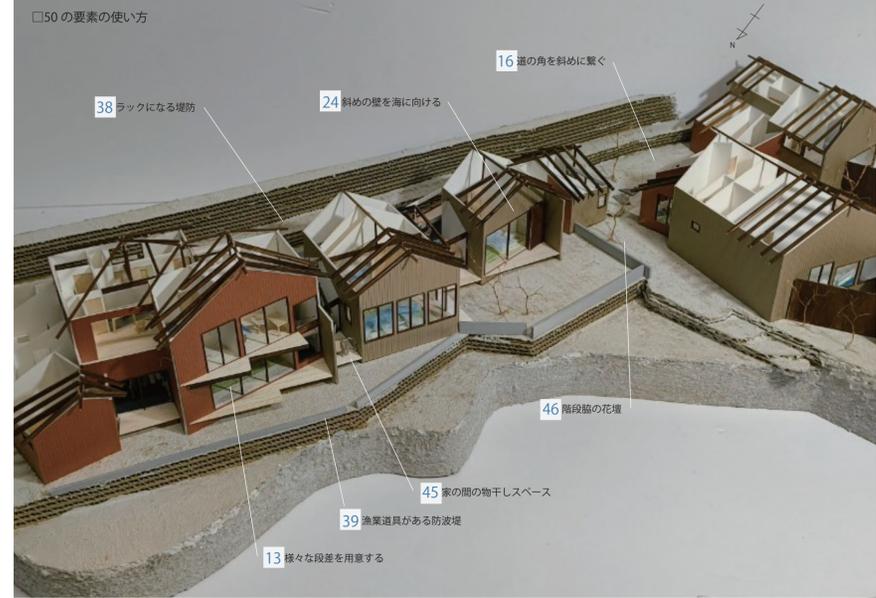
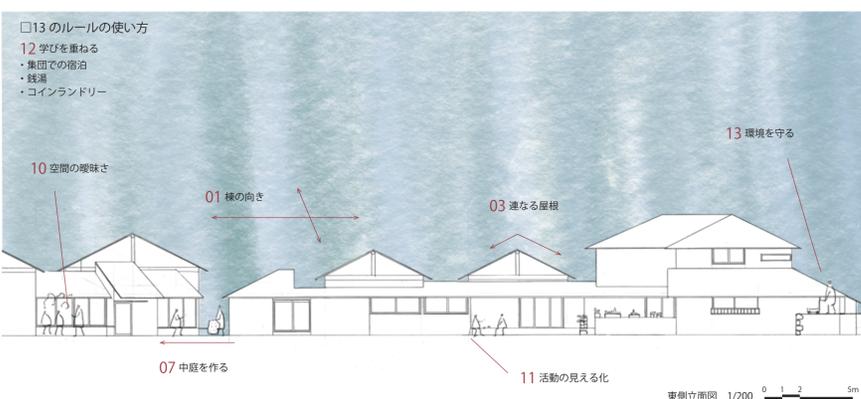


みんなの家
 用途：宿泊施設・銭湯等
 形式：木造
 敷地面積：890.46㎡
 建築面積：448.65㎡
 延床面積：500.63㎡

1階平面図兼配置図 1/100

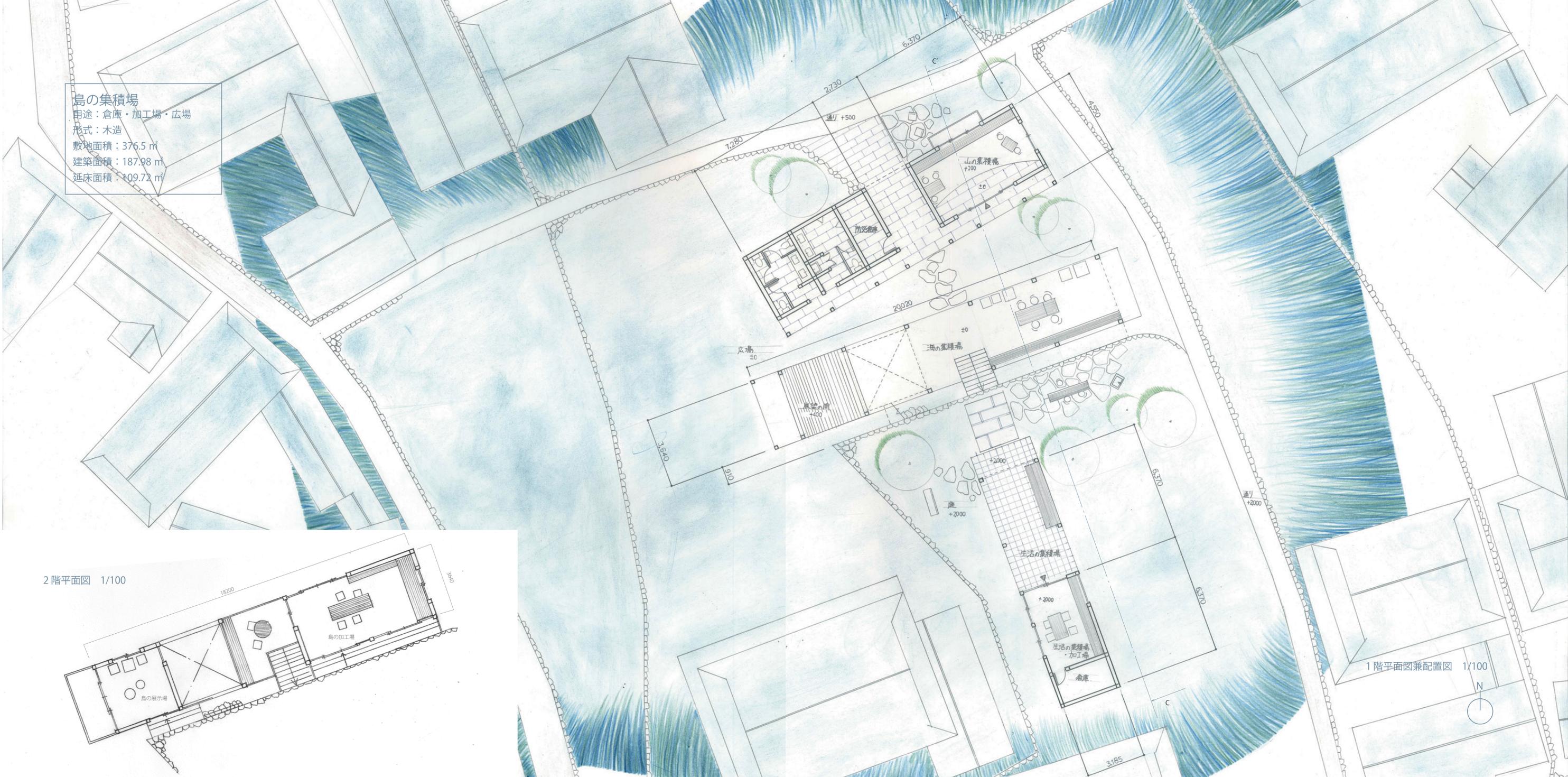
2階平面図 1/100

□04-3-エリア4：みんなの家
 □休息
 空間をグラデーションで繋げるような、太い境界線を持つ要素を重点的に活用した。生活の表出が家と道との境界線で行われ、内の生活行為は自然と集落に帰化されていく。多様な空間を作ることで、それぞれにとって心地の良い空間ができる。

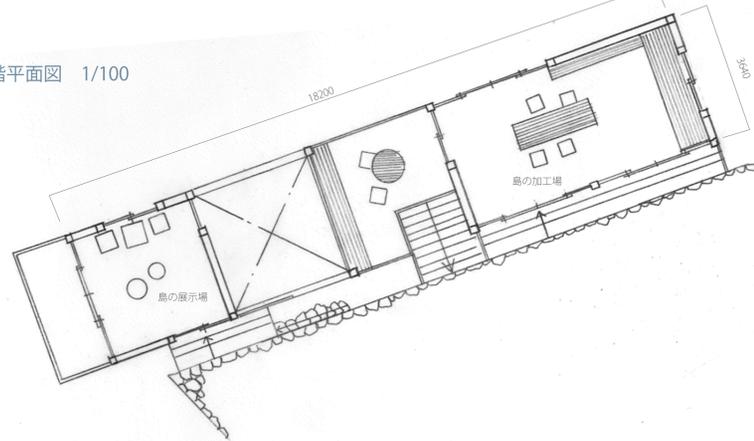


<p>13 様々な段差を用意する (高低差・近づける・バリアを埋める)</p>	<p>高さの異なることでその人に応じた 多様な使い方ができる</p>	<p>境界に段差を用意する</p>	<p>16 道の角を斜めに繋ぐ (高低差・近づける・繋がりへの演出)</p>	<p>新しい道を繋ぎ、近づけることで 繋がりを強固にする</p>	<p>空間を斜めに繋ぐ</p>
<p>38 ラックになる塙防 (海・隔てる・境界を感わす)</p>	<p>家と道の間は低い壁で隔て、 用途を重ねることで境界を感わす</p>	<p>遊び場にもなる塙防</p>	<p>45 家の間の物干しスペース (空白・埋める・繋ぐ)</p>	<p>私空間の間の空白は 生活の表出で繋ぐ</p>	<p>部屋の間のくつろぎスペース</p>
<p>46 階段脇の花壇 (空白・埋める・増やす)</p>	<p>間の空白は植栽で埋め、 高に色どりを増やす</p>	<p>道脇の植栽</p>			

島の集積場
 用途：倉庫・加工場・広場
 形式：木造
 敷地面積：376.5㎡
 建築面積：187.98㎡
 延床面積：409.72㎡



2階平面図 1/100



1階平面図兼配置図 1/100

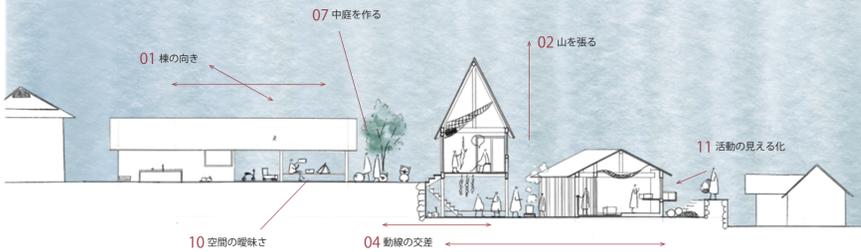


□04-3- エリア5：島の集積場

□宝物
 先のわくわく感や、空間に引き込んでいくような要素を重点的に活用した。空間の連続は誘導するように引き込み、同じ目的や感情を共有することで、深く相手のことを知り、学べる。味気のなさそうな要素も、会話を重ねた人の手でより良く作り変えられ、賑やかになっていく。

□13のルールの使い方

- 12 字びを重ねる
- ・海の集積所
- ・山の集積所
- ・生活の集積所



C-c 断面図 1/200 0 1 2 3m

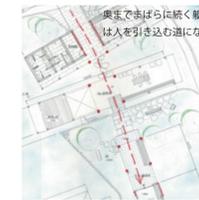
□05の要素の使い方



18 影が作る休憩所
 (高低差・使う・繋がり)の演出)



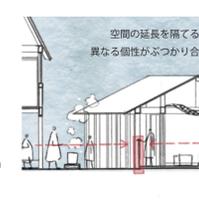
23 道に沿って誘導する家
 (高低差・保つ・保つ)



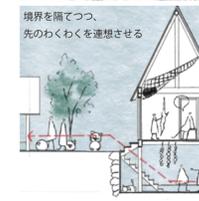
28 道を見下ろすバルコニー
 (海・向き合う・引き込む)



35 いかりを干す棚
 (海・隔てる・私的空間の延長)



40 海に下りる階段
 (海・隔てる・境界を感ず)



34 漆木を使った手摺

